

令和8年度 発生予察情報	発生予報第4号（概要版）	令和8年7月 23 日発行 宮城県病虫害防除所 (TEL:022-275-8982)
-----------------	---------------------	--

品目	病虫害名	発生予報	病虫害名	発生予報
水稲	いもち病 (葉いもち)	発生量: 平年並	いもち病 (穂いもち)	発生時期: 平年並 発生量: 平年並
	紋枯病	発生量: 平年並	稲こうじ病	発生量: やや少
	斑点米カメムシ類	発生時期: やや早い 発生量: 多	ウンカ類	発生量: やや多
大豆	紫斑病	発生量: 平年並	吸実性カメムシ類	発生量: やや多
	フタスジヒメハムシ	発生量: やや少	—	—
りんご	斑点落葉病	発生量: やや多	褐斑病	発生量: やや多
	果樹カメムシ類	発生量: 平年並	ハダニ類	発生量: 平年並
なし	黒星病	発生量: やや少	果樹カメムシ類	発生量: 平年並
	ハダニ類	発生量: 平年並	—	—
トマト	アザミウマ類	発生量: やや多	コナジラミ類	発生量: やや多
ねぎ	黒斑病・葉枯病	発生量: やや多	シロイチモジヨトウ	発生量: やや多
	ネギアザミウマ	発生量: 平年並	ネギハモグリバエ	発生量: 平年並
作物共通害虫	オオタバコガ	発生量: やや多	ハスモンヨトウ	発生量: 平年並

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、令和8年6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。



農薬危害防止運動
リーフレット

より詳しい内容は、下記ホームページでご確認ください。

宮城県病虫害防除所 <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>

次回、発生予報第5号の発行日は令和8年8月27日(木)の予定です。

★宮城県病虫害防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病虫害防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

令和8年度 発生予察情報	発生予報第4号 ー水稻ー	令和8年7月 23 日発行 宮城県病害虫防除所
-----------------	---------------------	----------------------------

ー8月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:7月 13～16 日

定点調査ほ:大崎市古川大崎(古川農業試験場)

天候予報:仙台管区气象台7月 16 日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
いもち病 (葉いもち)	ー	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年並、発病株率は平年よりやや高かった。(/ ± ～ +)
- (2) 平均気温が 19～25℃、曇りや雨が多いことが発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く (/ -)、降水量はほぼ平年並 (/ ±)、日照時間はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
いもち病 (穂いもち)	平年並	平年並

予報の根拠

- (1) 県内中生品種の出穂期は平年並の7月 30 日頃と予想される。(宮城県米づくり推進本部7月 22 日発表) (± /)
- (2) 定点調査ほ(品種「ひとめぼれ」)における葉いもちの発病株率及び株当たり病斑数は平年より多かった。(/ +)
- (3) 巡回調査の結果、葉いもちの発生地点率は平年並、発病株率は平年よりやや高かった。(/ ± ～ +)
- (4) 平均気温が 19～25℃、曇りや雨が多いことが発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く (/ -)、降水量はほぼ平年並 (/ ±)、日照時間はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
紋枯病	ー	平年並

予報の根拠

- (1) 前年の発生量が平年よりやや多かったことから、伝染源量はやや多いと推測される。(/ +)
- (2) 巡回調査の結果、発生地点率及び発病株率は平年よりやや低かった。(/ -)
- (3) 高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く (/ +)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
稻こうじ病	ー	やや少

予報の根拠

- (1) 前年の発生量が平年よりやや少なかったことから、伝染源量はやや少ないと推測される。(/ -)
- (2) 穂ばらみ期が低温で、降雨日数の多いことが発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く (/ -)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期 (第2世代成虫発生盛期)	発生量
斑点米カメムシ類	やや早い (8月第3半旬:8/11～8/15) (アカスジカスミカメ)	多

予報の根拠

- (1) 県内中生品種の出穂期は平年並の7月 30 日頃と予測される。(宮城県米づくり推進本部7/22 日発表)
(±/)
- (2) 定点調査の結果、アカスジカスミカメの第1世代成虫発生盛期は7月第3半旬であり、平年よりやや早かった。また、第2世代成虫発生盛期は、平年(8月第4半旬)よりやや早い8月第3半旬と予測される。(－/)
- (3) 巡回調査の結果、本田周辺の畦畔では斑点米カメムシ類の発生地点率は平年よりやや高く(/+)、すくいとり虫数は平年並であった。(/±)
- (4) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高いと予報されている。(/+)

病害虫名	発生時期	発生量
ウンカ類	－	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、本田での発生地点率及びすくい取り虫数は平年より多かった。(/+)
- (2) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高いと予報されている。(/+)

※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):早くなる要因 (空欄):該当せず
発 生 量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1) 共通事項

- ・ 病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・ 出穂期予測を参考に適期防除を実施する。今後の天候が平年並であると仮定すると、県内中生品種の出穂期は7月 30 日頃と予測されている。(宮城県米づくり推進本部7月 22 日発表)

表 地帯区分別の出穂期予測(令和8年7月 10 日現在)

地帯区分	田植盛期	出穂期
北部平坦	5/12	7/30
南部平坦	5/12	7/28
仙台湾沿岸	5/12	7/30
西部丘陵	5/13	7/30
三陸沿岸	5/12	8/4
山間高冷	5/15	8/13

注 1) 出穂期は、「DVR 法」による予測である。

気温はメッシュ農業気象データ(農研機構)により、当日までの実況地とその後 26 日間の予報値を使用している。

注 2) 移植時期の葉数は県生育調査ほ+作況試験ほ「ひとめぼれ」の平均 3.0 葉とした。

(2) 葉いもち・穂いもち

- ・ 上位葉での発病は穂いもちの重要な伝染源になる。葉いもちの発生が確認された場合は速やかに茎葉散布剤を散布する。
- ・ 茎葉散布剤を使用する場合は、ほ場をよく観察し、1回目を出穂直前、2回目を穂揃期に実施する。
- ・ 直播栽培では、移植栽培より生育ステージが遅く、全般に葉色が濃く推移しやすいことから、葉いもちが発生しやすく、穂いもちに移行しやすい傾向があるので、茎葉散布剤による防除を実施する。
- ・ BLASTAM による葉いもちの感染好適条件の推定結果は、以下のHPを参照する。

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>

(3) 紋枯病

- ・前年に形成された菌核が翌年の伝染源となるため、紋枯病が前年に発生したほ場では要防除水準を参考に防除を検討する。
- ・紋枯病の要防除水準は、出穂直前(穂ばらみ期)の発病株率で判断する。被害の許容水準を収量の減収率で5%以上とする場合、「ひとめぼれ」では18%、「ササニシキ」では10%、「コシヒカリ」では29%である。
- ・防除は穂ばらみ期の水面施用剤又は穂ばらみ期～出穂期に茎葉散布剤を施用する。

(4) 稲こうじ病

- ・前年に形成され土壌表面に落下した厚壁胞子が翌年の伝染源となるため、稲こうじ病が前年に発生したほ場では防除を検討する。
- ・銅剤による防除は出穂 20～10 日前が散布適期である。
- ・窒素肥料の多用は発生を助長する恐れがあるため、追肥の多用は避ける。

(5) 斑点米カメムシ類

- ・注意報第1号(7月 23 日発表)を参照する。
<https://www.pref.miyagi.jp/documents/45756/r8chuiho1.pdf>

(6) ウンカ類

- ・箱施用剤による予防防除を実施していないほ場で多発した場合は、防除を実施する。

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、令和8年6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後は適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL: 022-275-8982 FAX: 022-276-0429

E-mail: byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

令和8年度 発生予察情報	発生予報第4号—大豆—	令和8年7月23日発行 宮城県病害虫防除所
-----------------	--------------------	--------------------------

—8月下旬までの発生予報と防除のポイント—

巡回調査:7月13～16日

天候予報:仙台管区气象台7月16日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
紫斑病	—	平年並

予報の根拠

- 前年の子実調査の結果、発生量が平年並であったことから、伝染源量は平年並であると推測される。(/ ±)
- 多湿が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
吸実性カメムシ類	—	やや多

予報の根拠

- 高温が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高いと予報されている。(/ +)

病害虫名	発生時期	発生量
フタスジヒメハムシ	—	やや少

予報の根拠

- 巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや低く(/ -)、寄生頭数は平年よりやや少なかった。(/ -)

予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):早くなる要因 (空欄):該当せず

発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (－):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

- 大豆の生育ステージをよく確認し、各病害虫に対して適期防除を行う。
- 病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- べと病及び土壌伝染性病害(茎疫病、黒根腐病)の発病を防止するため、明きょ等の補修・点検を行い、排水対策を徹底する。

(2)紫斑病

- 大豆の生育ステージをよく確認し、開花期の20～40日後に1～2回薬剤防除を実施する。
- QoI剤に対する感受性低下菌の発生が確認されているので、薬剤の効力低下が懸念される場合は、他系統の薬剤の使用を検討する。

※普及に移す技術第99号参考資料「ダイズ紫斑病のQoI剤に対する薬剤感受性低下」

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/20200/r05sankou20.pdf>

(3)アブラムシ類(ジャガイモヒゲナガアブラムシ)

- ・例年、8月下旬～9月上旬に密度がピークに達するので、多発した場合は防除を徹底する。
- ・防除後も密度が低下しない場合や、急激に密度が高まった場合には、薬剤の種類を変えて追加防除を実施する。

(4)ウコンノメイガ

- ・ほ場内の葉巻率又は葉巻数を確認し、要防除水準を参考に防除適期の8月上旬に速やかに薬剤防除を実施する。
- ・減収率5%とすると1本あたりの葉巻数は1.3個以上、10%とすると1本あたりの葉巻数は2.9個以上となる。
(※大豆によるウコンノメイガの要防除水準:古川農試)

(5)吸実性カメムシ類

- ・開花期以降に発生が見られるほ場では、着莢期から子実肥大中期を重点に2回以上薬剤を散布する。
- ・今後の発生がやや多くなると予想されるので、ほ場の発生状況に注意し、適期防除を実施する。
- ・越冬地(雑草地、山林等)付近では発生が多くなるおそれがあるので注意する。

(6)ハダニ類

- ・突発的に集中発生することもあるため、多発した場合は防除を実施する。

(7)フタスジヒメハムシ

- ・第2世代成虫の発生盛期(平年:8月下旬～9月上旬)に薬剤散布を実施する。

(8)食葉性チョウ目幼虫(オオタバコガ、ツメクサガ等)

- ・中齢幼虫以上になると葉及び莢を加害し、被害が大きくなるので、早期発見・早期防除に努め、若齢幼虫期に薬剤防除を実施する。
- ・突発的に集中発生することもあるため、ほ場を注意して見まわす。

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、令和8年6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後は適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

令和8年度 発生予察情報	発生予報第4号 ーりんごー	令和8年7月 23 日発行 宮城県病害虫防除所
-----------------	----------------------	----------------------------

ー8月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:7月 13～16 日

天候予報:仙台管区气象台7月 16 日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
斑点落葉病	ー	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、徒長枝葉で発生地点率は平年より高く、発病葉率は平年並、新梢葉で発生地点率は平年より低く、発病葉率は平年より高かった。(/ ± ～ +)
- (2) 高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く(/ +)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
褐斑病	ー	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年より高く、発病葉率は平年並であった。(/ ± ～ +)
- (2) 気温 20～25℃で多雨が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く(/ - ～ ±)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
果樹カメムシ類	ー	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや低く、被害果率は平年並であった。(/ - ～ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	ー	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、ハダニ類の発生地点率及び寄生頭数は平年並であった。(/ ±)
- (2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く(/ +)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

- ・薬剤散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を前倒して降雨前に防除する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう晴れ間をぬって防除を実施する。

- ・スピードスプレーヤによる防除は低速による全列走行とし、薬液のかかりにくい部分は発生源になりやすいことから補完散布する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・DMI 剤 (FRAC コード:3)、QoI 剤 (FRAC コード:11) 及び SDHI 剤 (FRAC コード:7) 並びにこれらの混合剤は、耐性菌対策のため、それぞれ年間2回以内の使用とする。
- ・果樹の農薬使用回数は、前作の収穫後からのカウントになるので注意する。

(2)斑点落葉病

- ・発病葉率の高いほ場が確認されたことから、薬剤防除の際は、発病した新梢や徒長枝を取り除き、十分量の薬液をむらなく散布する。
- ・曇雨天が続く場合でも晴れ間をぬって防除を実施するなど、適期防除に努める。

(3)褐斑病

- ・曇雨天が続く場合でも晴れ間をぬって防除を実施するなど、適期防除に努める。

(4)果樹カメムシ類

- ・摘果作業時にはほ場内を注意深く観察し、被害果実を見つけ次第摘果するとともに、ほ場への飛来数が目立つ場合は、カメムシ類に登録のある農薬を散布する。
- ・フェロモントラップ調査結果を参照する <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/trap.html>

(5)ハダニ類

- ・ほ場をよく見回り、ハダニ類が1葉当たり3頭以上寄生している場合は防除を実施する。
- ・薬剤によっては寄生種や生育ステージにより効果が異なる場合がある。それらをよく確認して薬剤を選定し、散布後の状況をよく観察する。

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、令和8年6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後は適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

令和8年度 発生予察情報	発生予報第4号 ーなしー	令和8年7月 23 日発行 宮城県病害虫防除所
-----------------	---------------------	----------------------------

ー8月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:7月 13、16 日

天候予報:仙台管区气象台7月 16 日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
黒星病	ー	やや少

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は果そう葉及び新梢葉で平年よりやや低く、発病葉率は果そう葉及び新梢葉では平年よりやや低かった。(/ー)
- (2) 気温 20℃前後で多湿が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く(/ー)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
果樹カメムシ類	ー	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや低く、被害果率は平年並であった。(/ー～±)

病害虫名	発生時期	発生量
ハダニ類	ー	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、ハダニ類の寄生は確認されなかった。(/ー)
- (2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

- ・薬剤散布予定日に降雨が予想される場合は、散布を前倒して降雨前に防除する。また、降雨が続く場合は、散布間隔があかないよう晴れ間をぬって防除を実施する。
- ・スピードスプレーヤーによる防除は低速による全列走行とし、薬液のかかりにくい部分は発生源になりやすいことから補完散布する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・本県では、DMI 剤(FRAC コード:3)、QoI 剤(FRAC コード:11)、SDHI 剤(FRAC コード:7)の耐性菌は確認されていないが、これらの殺菌剤の使用は、混合剤を含め、それぞれ年2回以内とする。
- ・果樹の農薬使用回数は、前作の収穫後からのカウントになるので注意する。

(2)黒星病

- ・本病は感染から発病までの潜伏期間が14～30日であり、まとまった降雨の後しばらく経過してから急に症状が現れることがある。今後の発生に注意するとともに、防除間隔があかないよう定期的な予防防除に努める。
- ・発病部位は伝染源となるので、見つけ次第除去し、ほ場外へ持ち出して土中に埋めるなど適切に処分する。
- ・不要な徒長枝を取り除き、薬剤が樹全体に行き渡るように管理する。

(3)果樹カメムシ類

- ・摘果作業時にはほ場内を注意深く観察し、被害果実を見つけ次第摘果するとともに、ほ場への飛来数が目立つ場合は、カメムシ類に登録のある農薬を散布する。
- ・フェロモントラップ調査結果を参照する <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/trap.html>

(4)ハダニ類

- ・薬剤によっては、寄生種や生育ステージにより効果が異なる場合がある。それらをよく確認して薬剤を選定し、散布後の状況をよく観察する。

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、令和8年6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後は適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

ー8月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:7月 13～15 日

天候予報:仙台管区气象台7月 16 日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
アザミウマ類	ー	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率は平年よりやや高く(/ +)、被害果率は平年並であった。(/ ±)
- (2) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く(/ +)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
コナジラミ類	ー	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生地点率はやや低く(/ -)、寄生株率は平年より高かった。(/ +)

※ 予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

- ・発生はほ場ごとに差があるため、ほ場の見回り等による早期発見に努める。
- ・施設周辺の雑草は害虫の発生源となるので除草を徹底するとともに、ハウスサイド等の開口部に防虫ネット(0.4mm 目合い)を設置する。
- ・ウイルス病の発病株は、見つけ次第抜き取り施設外へ搬出し適切に処分する。
- ・植物体の過繁茂は、病害の発生を助長するほか、薬剤の散布ムラや病害虫の発生を見落とす可能性があるため、適切に栽培管理を行う。病害虫が多発してから防除は困難になるので、初期防除の徹底を心がける。
- ・訪花昆虫を利用する場合は、訪花昆虫の影響日数に注意して使用薬剤を選択する。
- ・病害虫の薬剤抵抗性の発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。

(2)アザミウマ類

- ・卵から成虫までの発育期間は 25℃で約 14 日であるので、発生が多い場合は、7日間隔で2～3回 RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。

(3)コナジラミ類

- ・コナジラミ類の寄生密度が高くなると、排泄物で果実や葉が汚れたり、タバココナジラミでは果実の着色異常が起こるので、ほ場をよく見回り、発生初期からの防除を徹底する。
- ・タバココナジラミの発生が低密度でも黄化葉巻病ウイルスを媒介するため、黄色粘着トラップ等を設置したりほ場の見回りをを行い、訪虫の有無等を観察する。発生を確認したら、発生が初期のうちに防除を行う。

(4)葉かび病・すすかび病

- ・多発してからの防除は困難なので、予防防除に重きをおく
- ・葉かび病とすすかび病の病斑は似ており、肉眼では判別が難しいので、関係機関に相談して顕微鏡で分生子を確認してもらい、それぞれに登録のある農薬を散布する。
- ・病原菌が葉に感染してから病斑が発生するまで、葉かび病は10日以上、すすかび病は2週間以上と潜伏期間が長く、発生を確認した時にはすでに他の株にも潜在感染している可能性があるため、見つけ次第速やかに防除を実施する。
- ・樹勢が低下すると多発しやすくなるので、適切な肥培管理に努める。

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、令和8年6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後は適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

ー8月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:7月 13 日～15 日

天候予報:仙台管区气象台7月 16 日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
黒斑病・葉枯病	ー	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年並(/±)、発病度は平年より高かった。(/+)
(2)高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±～+)

病害虫名	発生時期	発生量
シロイチモジヨトウ	ー	やや多

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率及び寄生株率は平年より高かった。(/+)
(2)高温少雨が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
ネギアザミウマ	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年並(/±)、被害度は平年よりやや低かった。(/ー)
(2)高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

病害虫名	発生時期	発生量
ネギハモグリバエ	ー	平年並

予報の根拠

- (1)巡回調査の結果、発生地点率は平年並(/±)、被害度は平年よりやや低かった。(/ー)
(2)高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く(/+)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/±)

※予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

(1)共通事項

- いずれの病害虫也多発してからでは防除が困難になるため、発生初期の防除に努める。
- 病害虫の薬剤抵抗性発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。

(2) 黒斑病・葉枯病、さび病、べと病

- ・多湿(降雨、滞水)により発病が助長されることから、排水が悪いほ場では明きよを設けるなど、排水対策を行う。
- ・草勢が衰えると多発する傾向があるので、適正な肥培管理を実施する。

(3) シロイチモジヨトウ

- ・卵塊やふ化直後の幼虫の集団を早期に見つけ、捕殺する。
- ・幼虫がねぎの葉身内へ食入して薬剤がかかりにくくなるため、被害を確認したら直ちに防除を実施する。また、中齢幼虫期以降になると薬剤が効きにくくなるため、若齢幼虫期のうちに薬剤散布を行うよう努める。

(4) ネギアザミウマ、ネギハモグリバエ

- ・ほ場内及びほ場周辺の雑草は、これら害虫の発生源となるので除草に努める。
- ・ネギアザミウマはウイルス病を媒介することがあるので、ほ場を観察し適切に防除を行う。
- ・近年、従来のネギハモグリバエと異なり、著しい食害痕を呈するバイオタイプ B の発生が広域で確認されているため、防除を徹底する。

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、令和8年6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 農薬容器のラベルをよく読みましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後は適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail: byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム

ー8月下旬までの発生予報と防除のポイントー

巡回調査:7月 13～16 日

定点調査ほ:名取市高館(農業・園芸総合研究所)、大崎市古川大崎(古川農業試験場)

天候予報:仙台管区气象台7月 16 日発表

1 発生予報

病害虫名	発生時期	発生量
オオタバコガ	ー	やや多

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、大豆の発生地点率は平年より高く(/ +)、トマトの被害果率は平年より高かった。(/ +)
- (2) フェロモントラップ(地点数:2)での誘殺数は平年並であった。(/ ±)
- (3) 高温少雨が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く(/ +)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

病害虫名	発生時期	発生量
ハスモンヨトウ	ー	平年並

予報の根拠

- (1) 巡回調査の結果、発生は確認されなかった(トマト)。(/ ±)
- (2) フェロモントラップ(地点数:2)での誘殺数は平年並であった。(/ ±)
- (3) 高温少雨が発生に好適であり、向こう1か月の平均気温は平年より高く(/ +)、降水量はほぼ平年並と予報されている。(/ ±)

※ 予報の根拠 (発生時期 / 発生量)

発生時期・・・(+):遅くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):早くなる要因 (空欄):該当せず
発生量・・・(+):多くなる要因 (±):平年並になる要因 (ー):少なくなる要因 (空欄):該当せず

2 防除のポイント

- ・多くの植物を餌にする広食性害虫であり、作物、果樹、野菜、花き等の多くの作物を加害するため、こまめにほ場を見回り早期発見に努め、中齢幼虫までに薬剤防除を行う。
- ・幼虫の齢期が進むにつれて防除効果が低下するので、若齢幼虫期での防除を心がける。
- ・施設栽培では開口部へ防虫ネットを設置し、成虫の施設内部への侵入を防ぐ。
- ・薬剤抵抗性の発達防止のため、RAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。
- ・フェロモントラップ調査結果を参照する <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/trap.html>

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、令和8年6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。



農薬危害防止運動
リーフレット

《お問い合わせ先》 宮城県病害虫防除所 〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429 E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp